

# 放射線科後期研修プログラム

## プログラムの目的と特徴

卒後臨床研修（2年間）の修了後、放射線科医を目指して研修を行うプログラムである。

放射線科にて3年間の後期研修後、放射線科専門医認定1次試験の受験資格を取得できる。1次試験合格後、更に2年間の研修後に「診断・核医学」部門および「放射線治療」部門の2次試験を受験し、合格して放射線科専門医を取得することになる。

## 取得できる専門医名

日本医学放射線学会放射線科専門医

## 専門医取得の要件

日本医学放射線学会放射線科専門医：日本医学放射線学会により認定された放射線科専門医修練機関にて5年間の研修と5年以上の学会会員歴が必要。

※当院は放射線科専門医修練協力機関（修練機関：福島県立医科大学）となっている

## プログラムの概要

放射線診断、放射線治療、核医学診断、放射線防護・管理の経験

### 1, 知識

放射線診断

- (1)放射線診断に必要な放射線物理および医用画像工学
- (2)CT、MRI、超音波、の基礎知識
- (3)診断用装置の構造・取扱
- (4)放射線診断の基礎的事項
- (5)放射線診断に必要な解剖・生理・薬理・病理
- (6)造影剤の基礎
- (7)放射線診断各論 ①中枢神経 ②頭頸部 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部 ⑦泌尿器・生殖器 ⑧乳房 ⑨その他
- (8)IVR 福島県立医科大学放射線科での修練となる

放射線治療

- (1)放射線物理学
- (2)放射線生物学

- (3) 病理学
- (4) 治療装置・器具
- (5) 治療計画
- (6) 放射線防護
- (7) 密封小線源
- (8) 放射線治療各論 ①中枢神経 ②頭頸部 ③胸部(乳腺を含む) ④消化器 ⑤泌尿器 ⑥女性性器 ⑦良性疾患 ⑧その他

#### 核医学診療

- (1) 核医学診療に必要な放射線物理学
- (2) RI測定装置および測定法
- (3) 放射線生物学および放射線障害
- (4) RI安全取扱
- (5) 核医学診断各論 ①中枢神経 ②循環器 ③呼吸器 ④内分泌器 ⑤消化器 ⑥骨・関節・軟部 ⑦泌尿器・生殖器 ⑧腫瘍・炎症 ⑨その他
- (6) RI内用療法

#### 放射線防護・管理

- (1) 放射線防護
- (2) 管理 ①廃棄物処理 ②個人被曝管理 ③放射線障害防止法・医療法など  
④RI施設の管理

## 2, 実技

放射線診断：以下の各項目について、指導者とともに年間30例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成する。

- ①中枢神経
- ②頭頸部
- ③循環器
- ④呼吸器
- ⑤消化器
- ⑥骨・関節・軟部
- ⑦泌尿器・生殖器
- ⑧乳房

血管撮影、IVR：福島県立医科大学放射線科での修練となる

放射線治療：指導者とともに年間30例以上の放射線治療計画を立案する。放射線治療を受ける症例の病棟管理を行う。

核医学診断：指導者とともに以下の項目について各々年間10例以上の検査の指示を行い、読影レポートを作成する。

- ①中枢神経
- ②循環器
- ③呼吸器
- ④内分泌器
- ⑤消化器
- ⑥骨・関節・軟部
- ⑦泌尿器・生殖器
- ⑧腫瘍・炎症

放射線防護・管理：指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理、の業務を経験する。

### **3, 学術・研究**

国内の学術集会において学術発表の演者として発表する。